

(2024/03/01)

## 卒業式 式辞

春の息吹が感じられる今日の良き日に、多数のご来賓の皆様、ご家族の皆様のご臨席を賜り、富谷高等学校第28回卒業式を盛大に挙行できますことは、私たち教職員にとってこの上ない喜びであります。

ただ今、卒業証書を授与した卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日まで卒業生を見守ってこられたご家族の皆様には、たくましく成長した姿を前にして、感慨もひとしおのことと存じます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんが期待と不安を胸に本校に入学してから3年の月日が過ぎました。皆さんは、本校で学び、体験した、あの日あのときのことを、懐かしく思い起こしているのでしょうか。

私が皆さんと出会った4月の始業式では、マスク姿で挨拶しました。その後、マスク着用は強制や推奨ではなく、個人の判断となり現在に至ります。

皆さんは、新型コロナウイルス感染症の影響により、日常の生活に大きな制約を受ける中で生活してきました。とても大変だったと思います。

ようやく落ち着きを取り戻し、コロナ対応が緩やかになったこの1年、これまで皆さんが、大切に大切に秘めていたエネルギーをパワーに変えて、工夫しながら充実した高校生活を送ってくれたことをうれしく思います。

今回猛威を振るった新型コロナウイルスは、21世紀に入って、SARS、新型インフルエンザ、MERSに続く、4度目のパンデミックです。このことは、今後、私たちが生きていく上で、数年おきに世界的なパンデミックが起こる可能性があることを示しています。そして、残念ながらそれに備える「正解」はありません。いつ、どこで、どれくらいの規模で、どのような症状を引き起こす感染症になるのかは予測できないからです。

感染症に限らず、私たちが生きているこの社会では、正しい答えが存在しない問題に直面することが度々あります。また、1つの問いに対して、2つも3つも異なる答えが存在したりすることもあります。

では、そのようなとき、どうすればいいのでしょうか。

私は、人と人との良質なコミュニケーションがブレイクスルーのポイントになると思います。ここで言うコミュニケーションとは、相手に自分の考えをうまく伝える技術ではありません。

考え方が異なり、意見が対立している人と人との緊張関係を緩和して、対話的環境に導く能力のことです。その貴重な能力を身につけ、近い将来のキーパーソンになるのが、本校で学んだ皆さんです。

と断言できるのは、昨年4月に開催された「収穫祭」での皆さんの発表がみごとだったからです。各分野で選出された代表グループの発表は本当にすばらしかったです。あそこまでまとめあげるには、相当の苦労があったことでしょう。

課題を見つけ、問いを立て、その解決策を提案するという学習過程の中で、たとえ仲の良い友達同

士とは言え、お互いの意見が対立することもあったはずですが。

そのような状況に陥ったときの皆さんは、お互いを尊重しつつ、どうすれば合意形成できるのか、悩みながらも、こつこつと、粘り強く、折り合いをつける努力を怠らなかったことだと思います。そのことが十分伝わる発表内容でした。

「それはあなたの感想にすぎないですよ」と言ってコミュニケーションを閉ざしてしまうやり方とは対極にある営みだと私は思います。

そのようなコミュニケーション能力に優れた皆さんは、この1年間、私にもよく話しかけてくれました。その中のひとりが、先日わざわざあいつをしに校長室を訪ねてくれました。いつもどおりたわいもない話をする中で、彼は「将来、人の役に立つ仕事、人を救う仕事をしたい」と目標を語ってくれました。

さらに、世界的に悲惨な戦争が終わらない状況に心を痛め、国と国との対立を防ぐために、いつそのこと世界が1つの国になったらいいのでは、と少し恥ずかしそうに話してくれました。ほとんど実現可能性のない、夢物語であることを承知の上でのことです。

そのとき私の頭には、このあいだ、ある研修会で訪問した、JICA国際協力機構二本松研修所のエントランスに、大きな世界地図が飾られていた情景が浮かんできました。その世界地図は、陸地と海との境界があるだけで、国境線の無い、象徴的な真っ白の世界地図でした。

世界平和を実現するにはどうすべきかという問いに対して、はじめから無理だと決めつけ思考を停止させるのではなく、皆さんはきっと、何かできることがあるのではないかと探ってみる選択をしてくれるに違いありません。

グローバル化が進み、多様性が尊重される現代において、皆さんは本校でのさまざまな学習活動の中で、SDGsやユネスコスクールの理念についても学びを深めました。皆さんには分断された世界や社会をつなぎ止める素養があるはずです。

私たちを取り囲んでいる現実の社会は非常に複雑です。すぐには答えの出ない問題に満ちています。

わからないこと、不確定なことに出会ったときには、1次方程式や善か悪かの二項対立の図式に当てはめるのではなく、むしろ、わからないことはわからないままわかろうとする努力をして、多くの人の対話をとおして最適解を導き出してほしいと思います。

そう言えば、先ほど話題にした校長室に来てくれた彼からは、先生の話は長いからせめて10分以内にしてほしいとリクエストされていました。なんとか今回はそれに応えられそうです。

それでは結びに、富谷高校で学んだ皆さんのような人が、これからの社会では重要なんですよ、遠慮せず活躍してくださいね、ということを強調しておきます。

そして、卒業生の皆さんの前途を祝福するとともに、ご来賓の皆様、ご家族の皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げ式辞といたします。

令和6年3月1日

宮城県富谷高等学校

校長 田淵 龍二